

意見交換の概要

- 開催日：平成28年11月23日（祝）10：00～11：30
- 会場：戸畑区役所
- 参加者：61名

Q. 質問・意見

日本における入院患者のうち、精神疾患による入院患者が30万人存在している。欧米ではそれらの患者を短期間で退院させるが、日本では入院期間が長期間に及ぶことが多いのではないかと。

A. 市長等の回答

精神科医療は転換期を迎えており、日本においても精神疾患による入院患者の入院日数を短縮して、通院で治療しながら地域で生活していくという方向性を国が示している。地域の中で精神疾患の患者が生活していける医療環境や地域づくりを進めるため努力していく。

Q. 質問・意見

多くの病気の原因はタバコということである。喫煙者に自覚を促すため、牧山市民センターの健康広場に肺年齢測定器を貸し出していただきたい。

A. 市長等の回答

現在、健康教室において肺年齢測定器を貸し出しており、今後も活用していただけるように計画的に台数を増やしていきたい。

Q. 質問・意見

介護保険料について、国民健康保険料のように市から税金を充当することにより抑えることはできないか。

A. 市長等の回答

国民健康保険は皆さんからいただく保険料と、国、県の負担金で財政運営がなされており、保険料を軽減するため、特別に北九州市は税金を投入している。

介護保険は、制度的に保険料の他に、国、県、市が負担するような制度設計となっていることをご理解いただきたい。

国も介護保険給付の増加を抑えるため、制度の改正や見直しの議論を行っている。本市でも介護予防に一層力を入れていきたい。

Q. 質問・意見

市民センター等で行う健康づくり活動について、より多くの方が参加できるよう工夫をしていただきたい。

国家戦略特区の認定を受け、戸畑区で事業が開始されている。そのことについて、お話を伺いたい。

戸畑祇園大山笠のユネスコ無形文化遺産登録について説明していただきたい。

A. 市長等の回答

どのようにたくさんの方に市民センターの活動や健康づくりの教室に参加していただくかという課題については、長年苦慮している。

今まで啓発活動として開催の周知を行っていたが、それだけでは参加への動機付けに繋がりにくいのではないかと考える。

今後の啓発活動においては、開催周知だけではなく、参加者が楽しく活動し、無理なく楽しく活動ができるという事を一人でも多くの市民に周知する、そういう広報を心がけていきたい。

内閣の特区制度は、様々な規制が新しい試みを阻害している場合に、国と自治体と民間事業者が協議のうえで提案を行い、良いものを認めていこうというものである。

全国的に、介護の現場は人手不足の状況にある。私どもは、ロボットがどこまで介護の手助けができるか、日本で初めての実証事業を行う。

また、シニアハローワークの設置も特区として認められた。その求人票は東京の有楽町の事務所でも閲覧でき、Uターン、Iターン希望者の手助けとなる。更に、小規模のワインの醸造も新しい試みとして若松で実施する。

戸畑祇園大山笠のユネスコの無形文化遺産登録については、11月28日から12月2日までエチオピアで開催される委員会で決定される予定である。

無形文化遺産登録が決定されれば、祝賀式典をウェル戸畑で実施する。

また、12月4日には戸畑駅、戸畑区役所間での戸畑祇園大山笠の特別運行が企画されている。

Q. 質問・意見

健康は経済と関係していると考える。

A. 市長等の回答

長野県で健康な方が多いというのは、就労や地域での社会参加などが起因すると考えられる。長野県と北九州市では、就労構造も異なっており、長野県の場合だと、農業従事者が多く、定年がなく何歳まででもその方の状態に応じて働ける環境や社会参加の環境がある。

農業が盛んな地域と工業化した地域では、そのような特性の違いはあるが、50歳以上の方も就労の場を確保するようなシニア・ハローワーク戸畑の取り組みなど今後も努力していく。

Q. 質問・意見

浅生スポーツセンターの駐車場について、駐車可能台数が少ないように感じ、さらに駐車場の開場時間を早めていただくか、駐車台数を増やしてほしい。
また、施設内に売店の設置を検討してほしい。

A. 市長等の回答

浅生スポーツセンターの駐車場は、9月1日に開館した時点では、駐車台数が88台であったが、11月1日に多目的広場がオープンし、そこを臨時駐車場として使うということも可能であり、現在では140台確保している。
仮に、大規模大会等で競合してそれでも足りない場合は、近隣の駐車場を紹介する。
駐車場の開場時間及び売店設置については、市民文化スポーツ局で管理しているので、要望を伝える。